

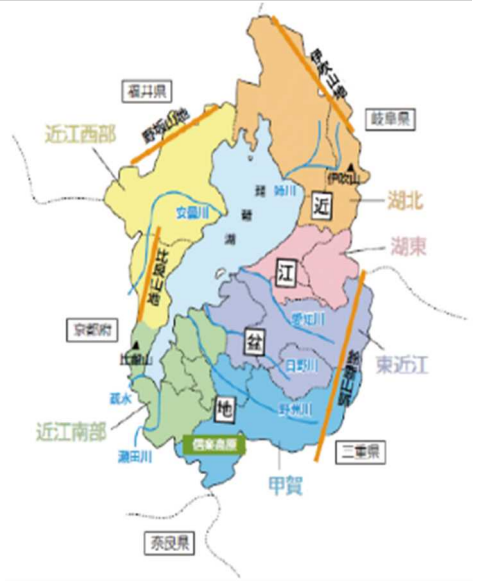
巻末資料② 滋賀県・琵琶湖の特徴

滋賀県の特徴

本県は日本列島のほぼ中央に位置し、北は福井県、東は岐阜県、南東は三重県、西は京都府と接しています。

面積は国土の総面積の約1%を占めており、中央には県土の総面積の約6分の1を占める、わが国最大の湖である琵琶湖があり、周囲を伊吹、鈴鹿、比良など1,000mを超える高い山々に囲まれています。

琵琶湖の周辺はこれらの山々から流れ出る大小の河川が扇状地や三角州をつくりながら湖に注ぎ、近江盆地を形成しています。

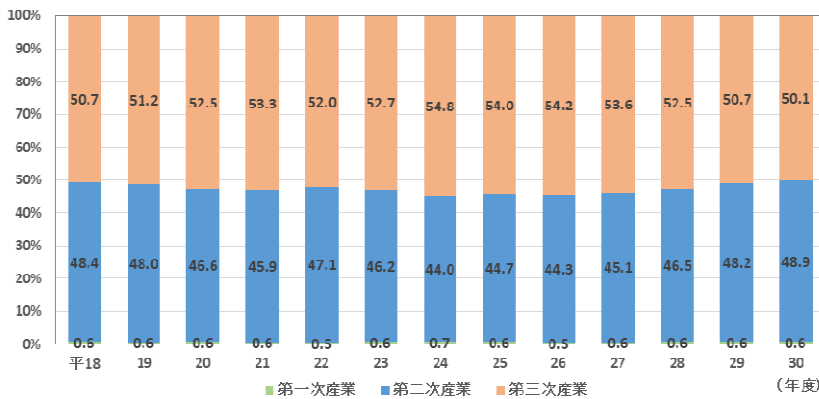


●産業構造

<商工政策課>

本県は全国有数の内陸工業県であり、県内総生産に占める第二次産業の割合は48.9%(平成30年度)となっています。

県内総生産の構成比の推移



※県内総生産には「輸入品に課される税・関税」「(控除) 総資本形成に係る消費税」が含まれるため、合計は100%とはなりません。

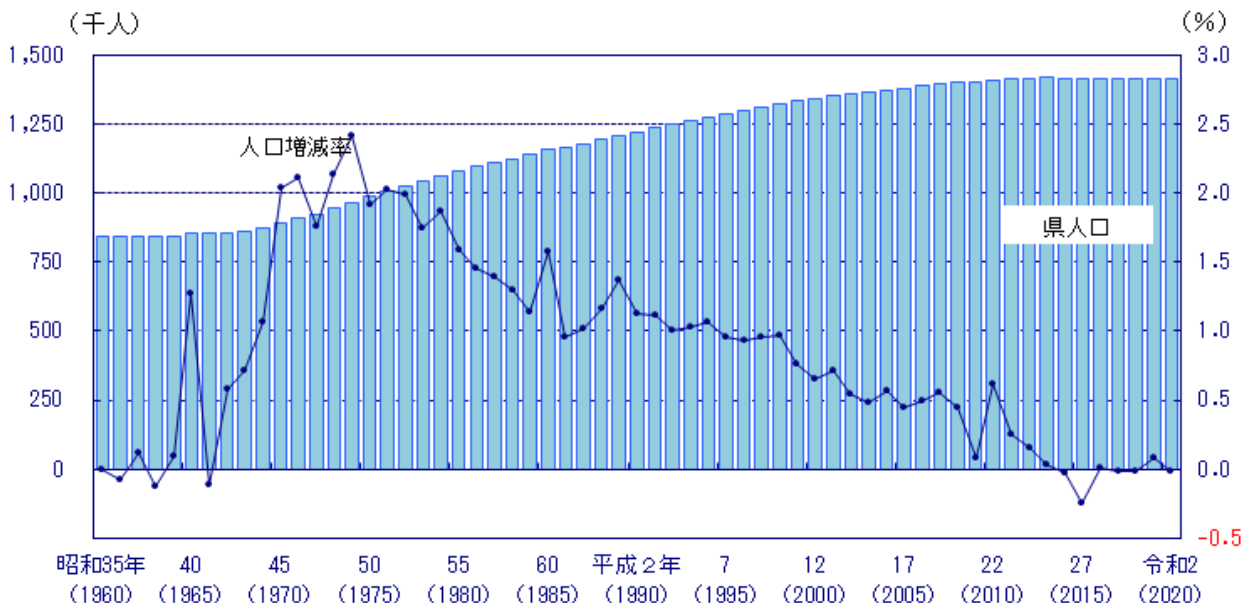
【出典：滋賀県統計課「平成30年度滋賀県民経済計算」】

●人口の変化

<統計課>

令和2年(2020年)10月1日現在の滋賀県人口は1,413,610人です。

本県の人口および増減率



出典：【国勢調査および滋賀県毎月人口推計調査結果】

琵琶湖の価値

琵琶湖の豊かな自然環境としての価値、水源としての価値を守り育てることは、健全な生態系と安全・安心な水環境のため、とても重要です。

また、日々の暮らしの中で、私たちは琵琶湖の水産業の場としての価値、観光資源としての価値、学術研究の場としての価値に触れ、その恩恵を受けています。これらは人の暮らしと琵琶湖の関わりを再認識させてくれる大切な琵琶湖の価値です。

● 古代湖としての価値

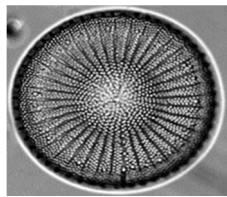
<琵琶湖博物館>

琵琶湖はおよそ 440 万年の歴史をもつ古代湖です。琵琶湖周辺から三重県伊賀市付近の丘陵に、湖沼や河川で堆積した古琵琶湖層群という地層が分布しています。この一連の地層は堆積年代によって分布地が異なっていますが、途切れずに現在の琵琶湖湖底の堆積物まで積み重なっています。その中で最も古い地層付近で見つかった火山灰層の年代とその下にある地層の厚さから、およそ 440 万年前である事が明らかになりました。また、これまで、琵琶湖の固有種は現在の琵琶湖が形成されはじめたおよそ 100 万年前に誕生したと考えられていましたが、DNA 分析の結果から種類によってはそれ以前に誕生した可能性が出てきています。まさに、生息する固有の生物の進化の舞台となっています。

◆琵琶湖水系に生息する固有種

プランクトン (2種)

- スズケイソウ
- ニッポンイトケイソウ



スズケイソウ

寄生動物 (4種)

- 吸虫類 (1種)
- 条虫類 (2種)
- 線虫類 (1種)

水草 (2種)

- ネジレモ
- サンネンモ



ネジレモ

魚類 (17種)

- | | |
|---------|---------------|
| ビワマス | ビワコオオナマス |
| アブラヒガイ | イトコナマス |
| ビワヒガイ | イサザ |
| ホンモロコ | ビワヨシノボリ |
| スゴモロコ | オウミヨシノボリ |
| ヨドゼゼラ | ウツセミカジカ |
| ワタカ | オオガタスジシマドジョウ |
| ゲンゴロウブナ | ビワコガタスジシマドジョウ |
| ニゴロブナ | |

底生動物 (37種)

- | | |
|------------|------------|
| オオツカイメン | カワムラヒメウズムシ |
| ビワオオウズムシ | イカリビル |
| ビワミジンコ | アナンデルヨコエビ |
| ビワカマカ | ビワコシロカゲロウ |
| ナリタヨコエビ | ホソマキカワニナ |
| ビワコエグリトビケラ | クロカワニナ |
| ナガタニシ | ナンゴウカワニナ |
| ナガタニシ属 | モリカワニナ |
| ビワコミズシタダミ | ナカセコカワニナ |
| フトマキカワニナ | オオウラカワニナ |
| タテヒダカワニナ | タデジワカワニナ |
| ハベカワニナ | タケシマカワニナ |
| イボカワニナ | イケチョウガイ |
| ヤマトカワニナ | オトコタテボシガイ |
| カゴメカワニナ | オグラヌマガイ |
| シライシカワニナ | カワムラマメシジミ |
| マルドブガイ | オウミガイ |
| セタシジミ | ヒロクチヒラマキガイ |
| | カドヒラマキガイ |



セタシジミ



アナンデルヨコエビ



ニゴロブナ

ホンモロコ

出典：Kawanabe H., Nishino M. and Maehata M. (eds) (2020) 'Lake Biwa: Interactions between Nature and People, 2nd ed.', Springer

●水源としての価値

<琵琶保全再生策課>

琵琶湖は、本県をはじめ京都府、大阪府、兵庫県の近畿約 1,450 万人の水道水源であり、その他農業用水・工業用水などにも利用されています。



・上記区域図は、イメージ図です。

府県名	平成30年度 琵琶湖水利用 区域内給水人口
滋賀県	1,204,862人
京都府	1,803,492人
大阪府	8,811,011人
兵庫県	2,973,669人
合計	14,793,034人 約1,450万人*

※10万人以下を、50万人単位で切り捨て。

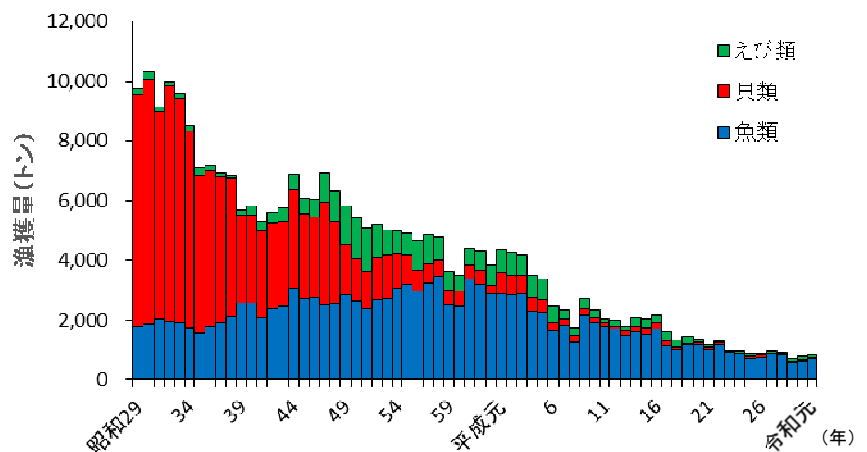
●水産業の場としての価値

<水産課>

コアユ、ニゴロブナ、ホンモロコ、ビワマスなどの魚類をはじめ、セタシジミ、スジエビなど、令和元年（2019年）には 811 トン（外来魚を除く）の水揚げがありました。これは、前年から41トンの増加で、コアユやイサザなどの増加によるものです。

琵琶湖の魚介類は独特の漁法で獲られ、ふなずしなどのなれずしや湖魚の佃煮、あめのうお御飯などの伝統食として本県の産業や食文化を支えています。

琵琶湖漁業の漁獲量の推移



●ラムサール条約登録湿地としての価値

<自然環境保全課>

琵琶湖は、平成5年(1993年)に「ラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）」の登録湿地となりました。平成20年（2008年）には、県内最大の内湖である西の湖および長命寺川が拡大登録されました。



ラムサール条約登録湿地（西の湖）

●観光資源としての価値

<観光振興局>

琵琶湖の湖岸や観光地等をサイクリングで周遊したり、緑豊かな湖岸で早朝にヨガを楽しんだり、澄み渡る溪流で天然のシャワーを浴びたりと、刻々と表情を変える琵琶湖を取り巻く自然には、観光資源としての価値もあります。



●学術研究の場としての価値

<環境政策課>

琵琶湖は生物・生態系、湖底遺跡などの学術研究の場となっており、本県の試験研究機関だけでなく、大学なども研究機関を設置し、各種研究を行っています。

●祈りと暮らしに関わる遺産としての価値

<文化財保護課>

古来、水は穢れを除き、病を癒すものとして祀られてきました。仏教の普及とともに東方の瑠璃色に輝く「水の浄土」の教主である薬師如来が広く信仰され、琵琶湖は「水の浄土」として見立てられました。その周囲には多くの寺社が建立され今日も多くの人々の心を引き付けています。また、琵琶湖の周囲で営まれる人々の暮らしの中には、山から水を引いた古式水道や湧き水を使いながら汚さないルールが伝わっています。湖辺の集落や湖中の島では、鮒ずしなどの独自の食文化やエリなどの漁法が育まれました。水郷や水辺の景観は古くから芸術や庭園に取り上げられ、近年では水と人の営みが調和した文化的景観として現代の人々を引き付けています。琵琶湖とその水辺景観には日本人の高度な「水の文化」の歴史が集積されています。



竹生島の夕景